

## 刊行に寄せて

1921年に渋沢敬三によって創設された「アチックミュージアムソサエティ」は、戦後の財団法人日本常民文化研究所の時代を経て、1982年に神奈川大学に移管されました。神奈川大学日本常民文化研究所では、創設時以来の理念を受けつぎ、「常民」の等身大の生活文化を明らかにするため、民具や古文書の収集・整理、漁村・漁業史研究所をはじめとする多様な領域を対象に、幅広い活動を展開してきました。とくに、その調査・研究にあたっては、創設者渋沢敬三がとなえた“ハーモニアスデヴェロップメント”の精神に基づき、異なる分野の研究者が協働で行う共同研究の方法を採用して推進してきました。また、地域で奮闘するさまざまな研究者や若手研究者の調査・研究を支援するための制度を導入して、研究の活性化と進展をはかっています。とくに、2010年度から、在野の研究者などの研究の一助となるよう、「常民文化奨励研究」としてグループによる課題を募集することといたしました。従来、この奨励研究は研究所本体の事業として推進されてきましたが、2015年度より国際常民文化研究機構の事業へと変更されました。今回刊行する神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第26集『アチック・ミュージアムの調査活動に関する基礎研究』は、変更後の2冊目の成果となります。

本共同研究は、アチック時代に行われた昭和9年（1934）5月の「隠岐調査（第一次）」と、昭和10年8月の「隠岐調査（第2次）」の検証・分析を目的に、その調査活動の内容や性格を追究するとともに、調査の過程で収集された写真や映像、民具などの関連資料の詳細なデータ化を図ることを課題としています。とくに、各資料保存機関に分散している諸資料をまとめて整理・分類している点は、利用者にとっても総合的な分析が可能となり、また、この成果を基礎に隠岐調査以外の調査の研究が展望できるなど、本書刊行の意義は大きなものがあると思われます。

2年間という短い時間と限られた研究費のなかで執筆にあたられた研究メンバーの皆様に、心よりお礼を申し上げます。

2018年2月

神奈川大学日本常民文化研究所長  
国際常民文化研究機構運営委員長

田上 繁